

●主題

生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造

～教科等横断的な学びを実現し生徒がエージェンシーを発揮する「未来創造科」の実践を通して～

●団体名

群馬大学共同教育学部附属中学校研究部

I はじめに

AI や IoT などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれらを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力が求められている。学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることとされている。また、児童生徒一人一人に資質・能力を確実に育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められている（図1）。さらに、ICT 端末の導入と活用により実現できる多様な学びの機会と場や、時間的・空間的な制約を超えた学びなど、ICT の特性と強みを生かした教育活動を行うことが期待される。

このような状況を受けて、令和4年度は、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて研究に取り組んできた。各教科で iPad を活用した学びに取り組むことで「見通しをもって学習に取り組めるようになった」「様々な考えの比較や検討を通して、よりよい問題解決の方法を考えられるようになった」という成果を得ることができた。これは ICT の活用が「主体的・対話的で深い学び」につながり、「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して資質・能力を養うことができたと考える。一方、各教科等の学びを、他教科や日常生活での問題解決に生かすことに関して課題が残った。

そこで、総合的な学習の時間を「未来創造科」として改編し、教科等横断的な学びを実現することで、多様な課題を解決するための資質・能力の育成を目指す。

II 研究のねらい

本研究では、令和4年度に引き続き、各教科等における学習過程に ICT の効果的な活用を位置付け、各教科等の特質を踏まえた ICT の活用を提案するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていく。また、教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して、「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造」を研究主題として設定し、教科等横断的な学びを実現し生徒がエージェンシーを発揮する姿を明らかにする。

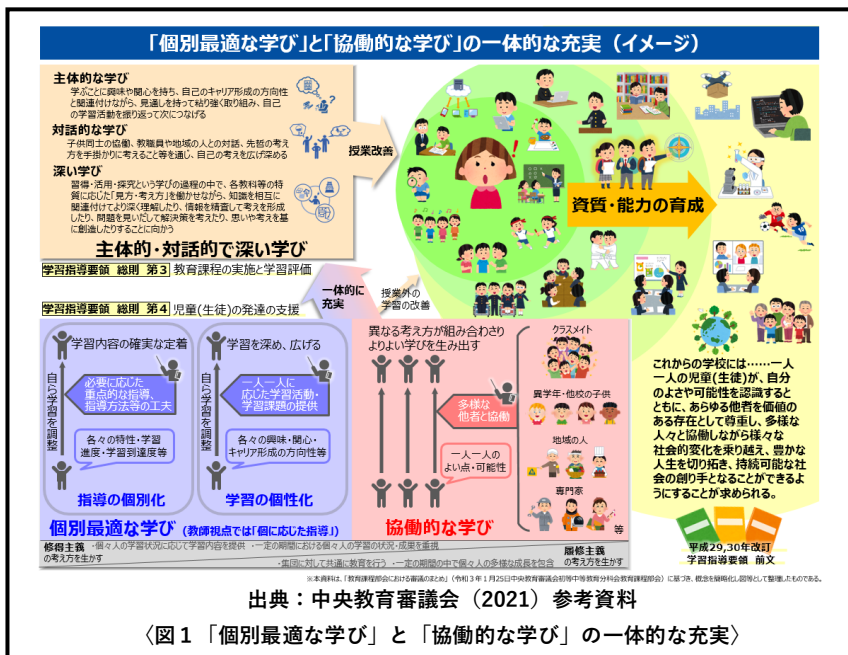
III 主題設定の理由

1 生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業とは

「一人一人の学びを最大限に引き出す」ためには「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが求められる。実際の授業を創造するに当たっては、「個別最適な学び」で得た成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するというサイクルを、ICT を有効に活用することで、効率的かつ効果的に実現させながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、「学びの質」を高めることが必要である。

「個別最適な学び」である「指導の個別化」では、一定の目標を全ての生徒が達成することを目指し異なる方法等で学習を進めることができるように、生徒一人一人の特性・学習進度・学習到達度に応じ、必要に応じた重点的な指導や指導法・教材等の工夫を行うことが重要である。「学習の個性化」では、異なる目標に向けて、学習を深め、広げられるように、生徒一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供することが大切である。これらを通して、「個別最適な学び」を充実させ、生徒が自己調整しながら学習を進めることができるようにしていく。その際、「孤立した学び」に陥らないように、探究的な活動や体験活動などを通じて「協働的な学び」を充実することも重要である。また、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、「協働的な学び」では、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出すために、生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、生徒同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働することができるようにすることが必要である。

また、令和4年度の研究に引き続き、各教科等の特性に応じた「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程について各過程の関係を成立させ、資質・能力育成のための手立てを講じることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現でき、より確かな資質・能力を養うことができると考える。その問題解決の過程に各教科等の特質に応じた ICT の活用を位置付けし、効率的かつ効果的に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることを通し



て、これまで以上に多様性を尊重していく。そして、各教科等で育成した資質・能力を「未来創造科」の実践を通して活用し、一人一人の学びを最大限に引き出す場を設定する。その中で、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題を解決する力を身に付け、生徒自身が自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働することで、未来を創造する力を育成していくことができると考える。以上を踏まえ、一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造を目指して授業実践を行っていく。

2 教科等横断的な学びを実現し生徒がエージェンシーを発揮する「未来創造科」とは

生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造を目指す実践の中で、各教科等の学びを他教科や日常生活での問題解決に生かすことに関して課題が残った。これは生徒が各教科等での学びをその教科の中でしか活用しておらず、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮する場がなかったことが原因と考えられる。この課題を解決するためには、各教科等の学びをつなげ、教科等横断的な学びを実現することが必要であると考えた。そこで、教科等横断的な学びの実現のために、総合的な学習の時間を「未来創造科」として改編し、生徒の学びの軸とすることとした。未来創造科を軸として各教科等と関連付けて単元を配列することで、各教科等で身に付けた資質・能力を未来創造科の学習の中で活用・発揮できるようになると考えた。生徒は各教科等で身に付けた資質・能力を他教科の場面で活用・発揮することで、生徒の資質・能力はより確かで汎用的なものになり、生徒の学びがより一層深まると考えられる。また、各教科等での学びが未来創造科で活用・発揮されることで、生徒の各教科等の学習へより主体的に取り組んだり、学習内容について実感を伴った理解につながったりすることが期待できる。さらに、未来創造科での学びが各教科等で活用・発揮されることで、生徒の教科等横断的な視点に立った資質・能力である学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成につながると考えられる。

複雑化している現代的な諸課題に対応し、これからの未来を創造する生徒の育成のためには、各教科等の学びを統合し、教科等横断的な視点に立った資質・能力を高める必要があると考えた。以上のことから、総合的な学習の時間を未来創造科として改編した。未来創造科では、「現代的な諸課題」を学校全体の探究課題として設定し、探究を行っている。各学年の単元を、第1学年「群馬を知る」、第2学年「日本を探る」、第3学年「未来を創る」と設定し、生徒自身が「何とかしたい」、「解決しなければ」という思いから探究を行えるようにする。第1学年と第2学年では、群馬や日本を対象に探究を行い、第3学年では、探究の対象を限定せず、これまでの探究を踏まえて、探究の方向性や未来の創造に向けたテーマを考えられるようにする。また、各学年で小単元を三つ設定しており、小単元①「過去を知る」、小単元②「現在を変える」、小単元③「未来に向かう」(第3学年は「未来を創る」)で構成している。それぞれの小単元において探究のプロセスである「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」を行い、各学年の1年間で探究のプロセスを3回行う(図2)。

未来創造科において、教科等横断的な学びを実現させるために、教科等横断的な視点に立った資質・能力を育成するための手立てを講じた。現代的な諸課題に対する講座の開設、未来創造科の年間指導計画の作成、未来創造科を各教科等で身に付けた資質・能力を発揮する場としての位置付けなどを行うことで、各教科等の学びが統合され、複雑な現代的な諸課題へ対応する資質・能力を身に付けさせることができると考える。

以上のように、生徒が現代的な諸課題に対する解決策や理想の未来、自己の生き方について探究することで、「現代的な諸課題を探究し、夢や希望あふれる未来を創造する生徒」の育成を目指した。

このように、未来創造科への改編を行い、生徒の学びの軸とすることで、教科等横断的な学びを実現し、生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造を目指した。

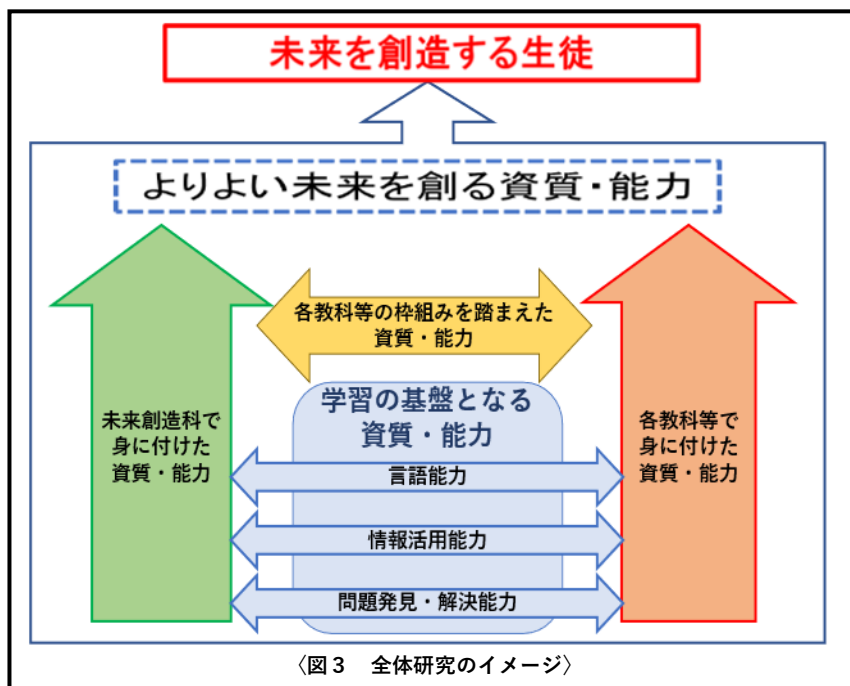
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
未来創造科第3学年	小単元①「過去を知る」、②「現在を変える」、③「未来を創る」「未来へつなぐ」											
	①過去を知る		②現在を変える				③未来を創る			③未来へつなぐ		
	現代の課題には、どんな原因があり、どんな取組がされているのだろうか。	異学年交流	現在をよりよくするために、私たちには何ができるだろうか。 *課題の設定から情報の収集まで	中間検討会	夏休みの実践	夏休み実践の整理・分析	夢や希望溢れる未来を創るために、どんな提案ができるだろうか。	未来創造科シンポジウム	卒業論文制作			

〈図2 未来創造科 第3学年の年間予定〉

IV 本研究における「目指す生徒像」

課題の解決に向けて見通しをもち、自らの考えを形成し、他者との協働を通して再形成したり、自己の学びを振り返り、調整したりしながら、よりよい解決策を模索し、未来を創造する生徒

子供たちがこれから生きていく予測困難な未来において大切になるのが、子供たち自身が様々な変化に積極的に向き合い、どのような状況にも柔軟に対応し、他者と協働しながら、最終的には社会や自らの問題を主体的に解決することができる力であると考え。その過程において身に付けていくべき資質・能力が、よりよい未来を創るための資質・能力であり、社会や人生をよいものにしていくことに必要不可欠な力である。そのような資質・能力を兼ね備えた生徒が未来を創造する生徒である。「よりよい未来を創る資質・能力」を身に付けるためには、各教科等の学びが相互に関連付き、各教科等で身に付けた資質・能力(図3)を自身が生きる未来と関連付けて活用・発揮される必要があると考えた。そこで、各教科等で身に付けた資質・能力と未来創造科で身に付けた資質・能力が相互に関連付き、互いの場面で資質・能力が十分に活用・発揮が行われるように、教科等横断的な視点



〈図3 全体研究のイメージ〉

に立った資質・能力である学習の基盤となる資質・能力と各教科等の枠組みを踏まえた資質・能力の視点から学びをつなげられるようにした。具体的には、まずカリキュラム・マネジメントの視点から、中学校3年間で身に付ける資質・能力の全体像を俯瞰し、単元配列表の作成を行った。その際に、各教科等で身に付けている資質・能力が、学習の基盤となるものなのか各教科等の枠組みを踏まえたものであるかを職員で共有し、単元計画を作成することで、生徒が身に付けた資質・能力を他教科の場面で活用・発揮できるようにした。このように未来創造科を軸として、単元配列表から単元計画を作成することで、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実によって高められた資質・能力が、様々な場面で活用・発揮されることでより確かな資質・能力となり、目指す生徒像に近付くと考えた。

また、生徒自身が自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。様々な問題を解決していく過程の中で「見方・考え方」を働かせることで、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を収集、精査して自らの考えを形成、再形成したりしていくことができる。また、既習の知識をより構造化した新たな知識として習得したり、広い領域や複雑な事象を基に思考・判断・表現できる力を身に付けたり、社会や世界にどのように関わるかという視点や考え方で物事を捉えられたりすることができる。

さらに、各教科等の特質に応じてICTを活用し、効率的かつ効果的に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、これまで以上に多様性を尊重し、一人一人の学びを最大限に引き出す授業を創造することで、自らの問題を多面的・多角的に捉え、よりよい未来を創ることができるようになると考えられる。

「課題の解決に向けて見通しをもち、自らの考えを形成し、他者との協働を通して再形成したり、自己の学びを振り返り、調整したりしながら、よりよい解決策を模索し、未来を創造する生徒」を目指す生徒像とし、そのために必要な資質・能力の育成を目指して実践研究を進める。各教科等では以下のように「目指す生徒像」を設定した。

教科	各教科等における「目指す生徒像」
国語	課題意識をもって作品の解釈を深めることができる生徒
社会	自らの考えと獲得した知識や他者との学びをつなぎ社会生活に生かそうとする生徒
数学	批判的に考察し、数学を深めることができる生徒
理科	他者と協働しながら自らの考えを深め、科学的に探究することができる生徒
音楽	個別の探究と他者との対話を通して、音楽から新たな気付きと感動を得られる生徒
美術	意図に応じて自分の主題を追求することができる生徒
保健体育	自己の適性等に応じた運動やスポーツの楽しみ方と心的エネルギーを獲得できる生徒
技術・家庭	4つの視点を用いて新たな問題における解決策を見いだす生徒
英語	目的や場面、状況等に応じて、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒
道徳	道徳的な課題を自分との関わりで捉え、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒
未来創造科	現代的な諸課題を探究し、夢や希望あふれる未来を創造する生徒

V 本研究における具体的な手立て

1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための具体的な手立て

各教科等における目指す生徒像に迫るための「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための具体的な手立ては以下のとおりである。

教科	「個別最適な学び」と「協働的な学び」一体的に充実させるための具体的な手立て
国語	○学習の個性化を重視した「学びタイム」
社会	①学びマップの活用 ②場の工夫
数学	○批判的思考力を養う「疑問解決タイム」の設定
理科	○「各学年で主に重視する探究の学習過程の例」の授業デザインと活用
音楽	○生徒同士のプレゼンテーションを前提とした「鑑賞ツアースケジュール」の活用
美術	○「試行活動」をする中で得られた情報を共有し、自分の表現にいかせる時間の充実
保健体育	○デジタルワンページポートフォリオ（OPP）の活用
技術・家庭	○新たな問題における解決策を4つの視点から見直し修正する「評価・改善タイム」の設定
英語	○「附中Can-Doシート」を用いたフィードバック
道徳	①「附中発問集」の作成と活用 ②「スタディログ」の活用の工夫

2 「未来創造科」の具体的な手立て

教科横断的な学びを実現する「未来創造科」の具体的な手立ては以下のとおりである。

	教科横断的な学びを実現する「未来創造科」の具体的な手立て
未来創造科	(1) 現代的な諸課題に対応した講座の開設による協働的な学びの充実 (2) 未来創造科を軸とした年間指導計画の作成 (3) 未来創造科クロスMAPの作成 (4) 未来創造科ガイドブックを活用した生徒運営型の授業づくり

今、日本の社会は、急激な少子高齢化社会の進展、AIの普及による情報技術の高度化、環境問題・自然災害といった現代的課題など、社会構造・社会状況が複雑化・多様化し、予測が困難な時代となってきた。そのような中、子供たちが自ら発見した問題を解決に導いたり、情報や技術を活用して新しいものを生み出したりすることができる資質・能力の育成が一層求められてきている。そのためには、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況の評価しその改善を図っていくこと、教育課程の実現に必要な人的な体制を確保・整備していくことが重要であると指摘されている。また、学習指導要領においては、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと、つまり「カリキュラム・マネジメント」の必要性が示され、教科等横断的な視点での教育の内容を組み立て、具体的な教育課程や授業へ落とし込んでいくことが重要である。そこで本校では「カリキュラム・マネジメントについて学校全体でどう取り組むか（未来創造科全体構想）」「具体的な教育課程の実施方法をどうするか（探究課題と探究の過程の活用）」「教科等横断的な視点の明確化と環境・自然災害などの現代的な諸課題の領域化をどう進めるか（領域・視点の設定）」「社会に開かれた教育課程の実施はどこまで可能か（学校評議員・PTA役員・附中サポートスタッフの協力）」など、検討を行い、カリキュラム・マネジメントに取り組んできた。

教科等横断的な視点に立った資質・能力は学習指導要領総則にて、以下のように大別されている。

1. 教科の枠組みを踏まえた資質・能力
2. 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）
3. 現代的な諸課題に対応する資質・能力

以上の資質・能力を踏まえ、未来創造科を軸とし、教科等横断的な学びの実現に向けて次の(1)～(4)の手立てを講じた。

(1) 現代的な諸課題に対応した講座の開設による協働的な学びの充実

教科等横断的な視点に立った資質・能力である「3. 現代的な諸課題に対応する資質・能力」の育成に向けた手立てとして、以下の二つを設定した。

① 現代的な諸課題の解決を目指した探究課題の設定

未来創造科の探究課題を全学年統一で「現代的な諸課題を解決し、よりよい未来に向かうにはどうしたらよいか」と設定した。このような探究課題を設定し、生徒は現代的な諸課題の解決に向けて探究することで、現代的な諸課題への理解を深め、それらに対応する資質・能力が育成できると考えた。各学年の単元は群馬や日本、未来を対象とすることで、探究課題を3年間でより深く探究できるようにした。さらに、生徒が現代的な諸課題の解決とよりよい未来の創造を目指すことで、夢や希望があふれる未来を創造していこうとする意欲を高めた。

② 現代的な諸課題に対応した講座の開設

学習指導要領総則の付録6を参考にし、本校の解釈で10の「領域」に分けて探究できるようにした。領域の中でも、健康や福祉、環境、防災、エネルギーのように関わりがあるものをまとめて4つの「講座」とした。「講座」に

は、担当の教員が配置され、より専門的な質問にも答えられるような体制を整えた。「講座」を開設することで、他領域との協働的な学びを行うことができ、現代的な諸課題に対応する資質・能力を育成できると考えた。

- 講座① 環境、防災、エネルギー
- 講座② 社会、情報、経済
- 講座③ 健康、福祉
- 講座④ 伝統・文化、教育

講座では、定期的に授業で講座の内容に関わるニュース等を紹介し、日常生活と関連付けられるようにした。

(2) 未来創造科を軸とした年間指導計画の作成

教科等横断的な視点に立った資質・能力である「2. 学習の基盤となる資質・能力」の育成及び統合に向けた手立てとして、未来創造科を軸とした年間指導計画を作成することとした。教員研修の事前にカードを配布し、「未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容」と「教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面」を各教科の教員で計画できるようにした(図4)。その後、「未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容」が学習の基盤となる資質・能力の中でも言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力なのかをカードの右上に提示した。

年間指導計画を作成することで、未来創造科の1年間の流れを踏まえて、どの教科のどの資質・能力をいつ育成することで、効果的に未来創造科の学習が行えるかを考えられるようにした。その活動の中で、他教科でどのような資質・能力を育成しているのかを教員同士で共有できると考えた。教員研修で作成した年間指導計画を基に、今年度の未来創造科と各教科の授業を効果的に行えるようにした(図5)。

教科：理科 言 情 問

①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容

解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する。

②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)

①課題を設定した後に、どう解決するかの情報収集の方法を考える。
②情報収集の結果を整理・分析するときに、方法はどうかを含めて分析する。

〈図4 校内研修で使用したカード〉

4月 5月 6月 7月

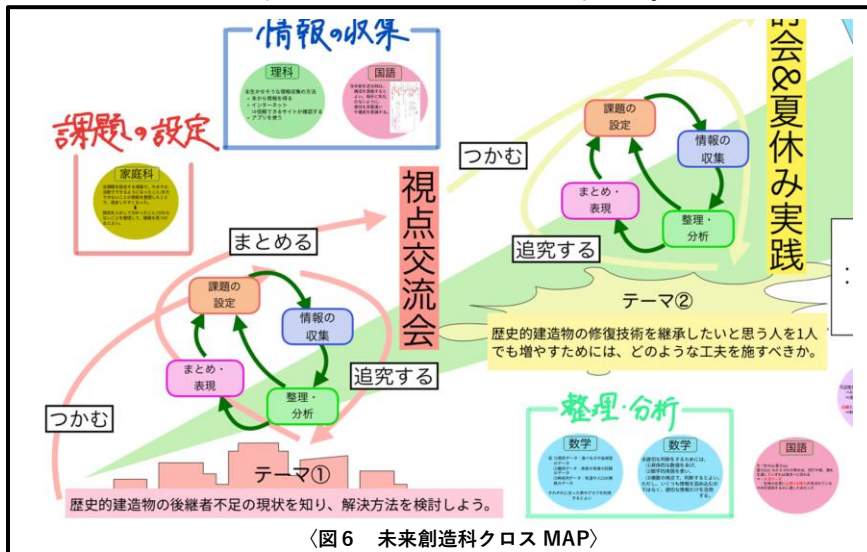
<div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：音楽 情 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じ取りながら、感情やイメージ、生活や社会、伝統や文化などとの関わりについて考え理解する。 【内容】歌謡/民謡/民謡、我が国の伝統的な音楽や世界の諸民族の音楽の鑑賞・鑑賞、創作など</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">現代的諸課題の原因を要素ごとに分解して検討し、一つ一つの原因となる事象が全体としてみたときにどのような影響を与えているかについて考え、総合的理解を深める。</div> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：保体 情 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">健康と環境において、健康情報を適切に選択し、健康と環境についての思考力、判断力、実行力を育成する</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">環境防災と健康福祉の視点でのつながりを生み出す他領域同士のつながり</div> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：音楽 情 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">運動における競争や、共同の経験を通して公正に取り組み、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画するなどの意欲を高める</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">物事との意見交換の際に積極的に参加したり、物事の状況を補助する際に、責任を持って活動できる</div> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：技術 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">技術に込められた問題解決の工夫を読み込む力</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">ユニバーサルデザイン等、使いやすさや分かりやすさを考えて表現する場面</div> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：数学 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">日常の中ひそむ数量に着目し、数学的な見方・考え方をもち現代の諸課題を見いだす力</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">課題の設定の場面で、経済や環境の諸課題に関する数量に着目し、課題を見出す場面。</div> </div>	<div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：理科 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">見通しをもち、検証できる仮説を設定する力</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">情報収集を行う前に、見通しをもつ場面</div> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：音楽 情 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">ほしいイメージをもって、まとまりのある音楽を創作する。 【内容】楽譜の創作、ボイスアンサンブル、ボーダーパーカッションアンサンブルの創作など</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">動画やプレゼンテーションを作成する際に、自身が伝えたいことのイメージに合ったBGMを制作したり選択したりする。</div> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：音楽 問</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">「フルタテ」「開演の秘」など 鑑賞において知覚・感受したこと、感情やイメージ、伝統や文化、生活や社会との関わりを考えながら鑑賞すること、それらの関わりについての理解を深め味わって聞く。 【内容】鑑賞資料全般</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">自身の考えと鑑賞の視点からの情報を問合わせながら探究することで、探究している対象だけでなく、自身の考え方の深まりに気付く。</div> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>教科：国語 情 整</p> <p>①未来創造科で発揮できる教科の資質・能力や内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと</div> <p>②教科の資質・能力を発揮する未来創造科の場面(希望でも可)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: 0.8em;">学校説明会の絵コンテ作成</div> </div>
---	---

〈図5 校内研修で作成した未来創造科を軸とした年間指導計画の一部〉

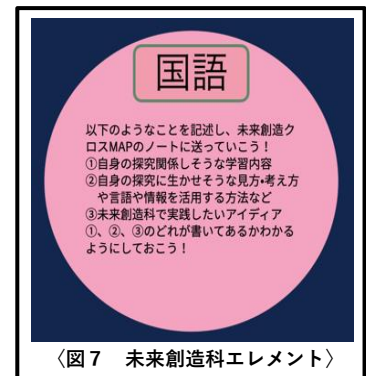
(3) 未来創造科クロスMAPの作成

「1. 教科の枠組みを踏まえた資質・能力」を統合するための手立てを構想した。未来創造科を各教科で育成された資質・能力を発揮する場面として位置付けることで、生徒は各教科等で学習したことを日常生活や社会で生かそ

うとする力が身に付くのではないかと考えた。そこで、生徒に、各教科等の学びを未来創造科で活用できることを自覚させるため、未来創造科クロス MAP を作成させた。この未来創造科クロス MAP は生徒一人一人にデジタルで配布する。各教科等では、各教科で作成しているワークシートや振り返りシートに未来創造科エレメントを配置する。生徒は、「今学習していることは、未来創造科でも使えそうだ」と感じた時に、未来創造科エレメントにその関連や学びを書き込み、未来創造科クロス MAP に貼り付けていく（図6、図7）。すると、生徒は未来創造科のどの場面でのどの教科の学びを活用したかを明確に理解し、各教科等の学習を未来創造科の探究に生かすことができる。このような活動を通して、生徒は各教科等の学びを日常生活や社会で活用する過程を体験し、より確かな資質・能力として身に付けられるようになるのではないかと考えた。



〈図6 未来創造科クロス MAP〉



〈図7 未来創造科エレメント〉

(4) 未来創造科ガイドブックを活用した生徒運営型の授業づくり

生徒が「自己の生き方」を踏まえて探究を進めるためには、道徳科だけでなく特別活動とも関連付けていくことが有効であると考えた。特に、生徒が「自分は今、何を探究していくべきか」を自ら意思決定し情報の収集や整理・分析を終えた後の振り返りは、より「自己の生き方」を踏まえた自分事のものになるだろう。

そこで、学級活動の授業で培った話し合う力や、意思決定するための話し合いの流れを活用して、より「自己の生き方」に着目した探究ができるようにするために、生徒運営型の授業を行う。計画委員となる生徒が、未来創造科ガイドブックをもとに探究を深めるための学習活動を考え、学級に対して授業の提案を行えるようにする。また、計画委員が中心となって授業の進行をする。

教科等横断的な視点に立った資質・能力は学習指導要領総則にて、以下のように大別されている。

1. 教科の枠組みを踏まえた資質・能力
2. 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）
3. 現代的な諸課題に対応する資質・能力

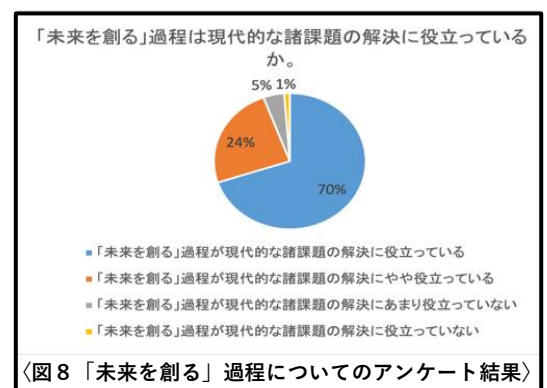
生徒運営型の授業では、学習の基盤となる資質・能力はもちろんのこと、学級活動をはじめとする各教科の資質・能力や現代的な諸課題に対応する資質・能力など、学習を通して培った多くの資質・能力の発揮が期待できる。「先生のガイダンスで言われた」から始まる探究ではなく、生徒の意思決定から始まる探究を行うことで、生徒が自らエージェンシーを発揮することができると思う。

また、異学年交流や中間検討会においては、これまでも生徒が進行を行ったり、生徒同士で質疑応答をしたりして探究を深めてきた。日常的に生徒運営型の授業を行うことによって、講座内発表会や未来創造科シンポジウムにおいても、これまで以上にエージェンシーを発揮しながら学習に取り組むことができるようになると思う。

VI 成果と課題

(1) 現代的な諸課題に対応した講座の開設による協働的な学びの充実

成果として、生徒は探究課題を踏まえて、自身のテーマの解決に向けて探究を行う中で、現代的な諸課題の原因や現在の取組、その取組の効果について理解を深めることができた。小単元①に設定した「過去を知る」の過程が、生徒の現代的な諸課題に対する理解を深めるのに効果的であった。また、小単元②に設定した「現在を変える」の過程では、生徒は自分自身にできることは何かを考えて実地調査や実践を行い、未来に向けて自分が今できる行動を主体的に行っていた。さらに、小単元③に設定した「未来に向かう」（第3学年は「未来を創る」）の過程では、自分たちが生きる未来に向けて前向きに自身のアイデアを提案する姿が見られ、90%以上の生徒が「未来を創る」過程が現代的な諸課題の解決に役立つと肯定的に回答した（図8）。これらのこと



〈図8 「未来を創る」過程についてのアンケート結果〉

から、生徒は自分たちが未来の担い手であることを自覚し、夢や希望あふれる未来を創造する意欲や必要感が高まっていると考えられる。講座を開設することで、同じ領域の仲間とは情報の収集等を協力して行い、他領域の仲間とは意見交換や発表を通して、協働的に学習を進めることができた（図9・10）。特に他領域との交流については、



〈図9 講座内交流の様子〉



〈図10 異学年交流の様子〉

生徒が他領域との関わりに触れながら自身の探究を進めている姿が見られた（図11）。このように他領域、他講座との交流を通して、複雑な現代の諸課題に対応する資質・能力が育成されていくことが分かった。

また「未来創造科」では、「未来創造科シンポジウム」（第1・2学年では「未来創造科ミニシンポジウム」）を年間の最後の「まとめ・表現」の場として設定している。「未来創造科シンポジウム」に向けては、年間で継続的に探究に対しての指導・助言をいただいているPTA役員や附中サポートスタッフのアドバイザーの方々に加え、群馬県教育委員会や学校評議員に方々にもご協力いただき、様々な視点から探究に対しての示唆を得られるようにした（図12・13）。前述した様々な交流を経ることによって、生徒が積極的にアドバイザーの方々に質問をし、考えを深めることができていた。

課題として、未来創造科の学年の単元の中で、「自己の生き方」について考えているが、現代の諸課題の解決に向けた探究の中で、探究的な学習のよさを感じている生徒はまだ少数であった。今後は探究的な学習のよさを実感できるような手立てを講じ、生徒が自身の探究を振り返りながら、自分自身の学びと関係付けられるようにしていきたい。

講座① 防災の領域の生徒
環境やエネルギーの人の発表を聞いて、原子力発電が減った理由として東日本大震災による被害が原因だという防災の領域との関わりがあった。今日の交流を通して分かった原子力発電などの関わりを加味して防災について考えていきたい。
〈図11 生徒の記述〉



〈図12 未来創造科シンポジウム発表の様子〉



〈図13 アドバイザーの指導助言の様子〉

(2) 未来創造科を軸とした年間指導計画の作成

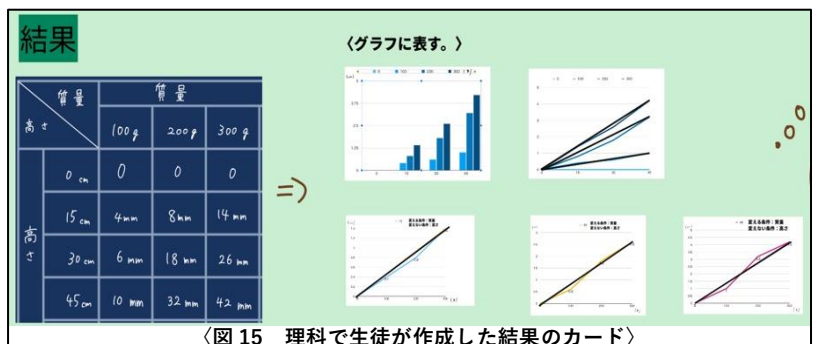
教科等横断的な視点に立った資質・能力である「2. 学習の基盤となる資質・能力」の育成及び統合に向けた手立てとして、未来創造科を軸とした年間指導計画の作成を行った。この成果として、各教科で計画的に言語能力や情報活用能力の育成を目指す授業が行われた。教員研修の中で、「言語能力は汎用性が高いため年度始めに授業を行えるとよい」といった意見に基づいて、国語科のプレゼンテーションや文章の解釈に重点を置いた授業が4月実施に変更して行われた（図14）。また、グラフ作成の技能や正しい情報が見極めてどのように扱うかといったような情報活用能力の育成を目指した理科の授業では、グラフの作成やインターネットを用いた調べ学習を取り入れ、5月に実施された（図15）。

各教科等で身に付けた資質・能力を発揮する場面として未来創造科に位置付けたことにより、生徒は学習した内容や身に付けた資質・能力を活用することを通して、自身の学びを統合することができた。例えば、美術科で身に付けたレイアウトや色彩の考えを用いたり、数学科で身に付けたデータの分析を活用したりしてポスタ

中間視点交流会シート		【1期】
		3年 2組 氏名()
評価項目	注意事項	数値評価 記述評価（良い点や改善点を記入する）
① 解決方法	課題に対する方法としてよさ わしいかどうか。	④・3・2・1 アイデンティティ編についての課題を立てたので、後半の部分で表を用いながら説明されていたので、良いと思った。特に、見本と自身は違うものだという説明は、若い女性の立場の状況が裏付けとなっていた。
② プレゼン方法	プレゼン形式がよさ わかりやすい説明か	④・3・2・1 例えを用いて説明しており、人の名前は記号化されていると言った内容がよく伝わった。図式化して表しているところがあり、自分の班と同じように、視覚的に分かるような工夫をしていた。
③ わかったこと に対する分析	何がわかったのか本文を根拠 にまもられているか。	④・3・2・1 この物語で用いられている記号の置き換えをして説明をしているところが分かりやすかった(楕円形みたいな表を用いていた)

優しい→様々なニュアンスがある
教科書に載っていた記号→若い女性にとっては様々なニュアンスに感じられる
記号は象徴の違う

〈図14 国語で使われたワークシート〉



〈図15 理科で生徒が作成した結果のカード〉

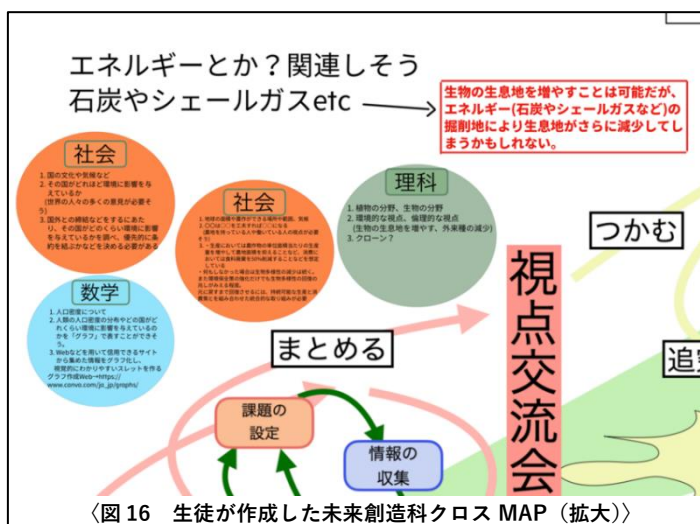
一を作成する姿が見られた。また、国語科で絵コンテを作成し、学校紹介動画を作成する活動もまとめ・表現の場面で参考になっている生徒もいた。このようなことから、生徒が各教科で身に付けた資質・能力を発揮することができたといえる。

課題として、生徒は各教科等で身に付けた資質・能力のうち、どの資質・能力を活用すると効果的であるかを判断することが難しいということがあった。生徒が主体的に身に付けた資質・能力の中から、的確に未来創造科に生かせるものを選択して、実践できるとよいと考える。そのためには、各教科等で、未来創造科のどんな場面で活用すると効果的であるかを意識付けさせるような支援も必要だと考える。

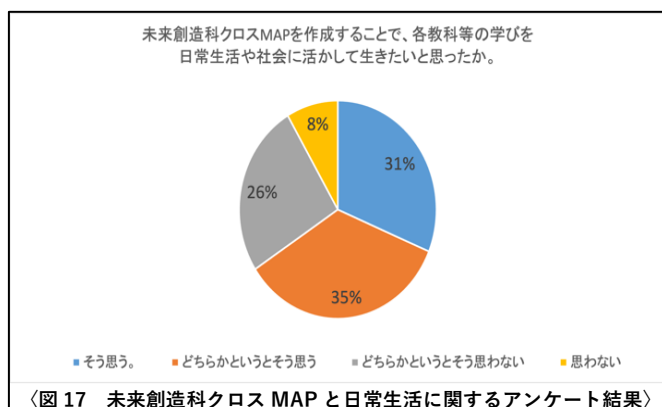
(3) 未来創造科クロス MAP の作成

「1. 教科の枠組みを踏まえた資質・能力」を統合するための手立てとして、生徒に未来創造科クロス MAP を作成させた。成果として、生徒は未来創造科クロス MAP を作成することで、各教科等の学びと未来創造科の関連を可視化し、各教科等で学習したことが未来創造科に生かされていることを自覚できた（図 16）。また、生徒はどの教科でも未来創造科エレメントを記述できる環境にあったため、各教科で学んでいることがどのように活用できるか考えることができた。さらに、生徒は各教科等の学びが未来創造科でどのように活用できるかを考えるだけでなく、日常生活や社会においても、各教科等で学習したことを生かそうとする生徒が多く、70%以上の生徒が未来創造科クロス MAP の作成を通して、各教科等の学びを日常生活や社会に生かしていきたいと肯定的に回答した（図 17）。

課題として、各教科等の学びが未来創造科で活用できることを自覚し、日常生活や社会に生かそうとする生徒は多かったが、各教科等同士の関連性を考えている生徒は少なかった。今後は、各教科等の学びがより統合され、生徒が各教科等の学びをそれぞれ関連付けられるような手立てを講じていきたい。



〈図 16 生徒が作成した未来創造科クロス MAP (拡大)〉



〈図 17 未来創造科クロス MAP と日常生活に関するアンケート結果〉

(4) 未来創造科ガイドブックを活用した生徒運営型の授業づくり

「まとめ・表現」の場を中心として、生徒運営型の授業実践を行った。未来創造科ガイドブックの各チェックリストやマニュアルを基にしながら事前に司会生徒がどのように授業を進めていくのがよいか話し合いを行い、生徒自身で授業を進行していくことができたようにした。各学年では、学級委員を中心として講座内交流会を行い、生徒の意思決定をする機会を増やすことで、「自己の生き方」を踏まえた探究が進められるようにした（図 18～20）。



〈図 18 中間検討会の様子〉



〈図 19 生徒運営型の授業の様子〉



〈図 20 ガイドブックを活用する様子〉

成果として、「実現したい未来」に向かって継続的に社会に関わろうとする姿が見られた。例えば7月に実施した中間検討会において、事前にクラウド上で全員分のスライドを閲覧できるようにすることで、探究した内容について

て、他者の「実現したい未来」と関連させ「自己の生き方」を踏まえながら振り返っていた。中間検討会当日においても、3年生が運営をしながら、学年問わず質疑応答をし合い、それぞれの「実現したい未来」や探究の是非について語り合い、生徒のエージェンシーが発揮されていた。また、学校評議員やPTAの方々から助言をもらう際にも司会の生徒が中心となって話題を設定していた。ワークシートの振り返りからは、生徒が主体的に他者と協働しようとする意欲や、自分の個性を大切にしようとする意識など、「自己の生き方」を踏まえながら生徒のエージェンシーが発揮されていくであろうと期待される記述が多く見られた（図21）。

1学期を振り返って、見通しを自分でもって探究し、伝えようとするところはできている一方で、他者と協働したり、自分の個性を生かしたりするという意識をもって活動がしきれていないことに気づいた。同じ講座の学友と協働すれば、方向性の近い人と見通しを立てることができるし、他の講座の人と協働すればお互いに自分の探究に生かせるところを発見できるかもしれない。また自分の個性を生かせれば、より未来創造科に熱意をもって取り組めると思う。今日の振り返りを意識してこれからも探究をしたい。

〈図21 ワークシートの記述〉

また、生徒運営型の授業では、自分たちで話し合う内容を決める必要があることや、授業の進行方法を考える必要があることで、様々な資質・能力を統合させながら探究に取り組む姿が見られた（図22）。

以上のことから、生徒運営型の授業実践が生徒のエージェンシーや学習の基盤をはじめとする様々な資質・能力の発揮につながったと考える。

課題として、生徒運営型の授業実践をより日常的・継続的に行っていくことが挙げられた。学級活動と同様に、生徒運営型の授業をより実りのあるものにするためには、話し合いの題材が必要感のあるものでなくてはならない。探究的な学習のサイクルのどこに生徒運営型の授業を位置付けることが、より生徒の必要感のある効果的な授業になるかを、継続して実践し生徒と共に検証していくことが大切であると考え。そのためには、例えば計画委員を「未来創造委員」として学年で組織し、探究の進度に応じて生徒運営型の授業を立案していくことが考えられる。

- 計画委員が自分たちで話し合う内容を決める場面で、クラスの仲間が今何につまずいていて、探究を深めるためにどんな学習活動をして欲しいか、**情報収集する姿。**
- 各教科等の**学び方を転移**させ、どのような学習活動にするかを**計画立案する姿。**
- 専門的な内容や知識及び技能を習得するために、**講座担当の先生と相談する姿**や、学年内外の先生に**講義を依頼する姿。**
- 当日の話し合い活動において、自身の探究の成果を基に、他の人の探究を深めるために**惜しみなく情報開示する姿。**
- 探究が深まっている生徒に対して、**情報収集や整理分析の具体的な方法を詳しく聞き出して共有し、自身の探究に生かそうとする姿。**

〈図22 生徒運営型の授業実践で見られた生徒の姿〉

Ⅶ 研究のまとめ

研究主題を「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造」とし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んできた。その実践の課題を踏まえ、2年次では更に各教科で手立てを講じ、個で探究したことを協働的な学習に生かし、学びを充実させることで生徒一人一人の「学びの質」を上げる取組をした「未来創造科」の実践を行った。その中で各教科の枠を超えて、自分の興味・関心に応じて探究テーマを設定し、課題を解決するために主体的に解決方法を考え、各教科で学んだことを生かすための場を設定した。これにより、生徒たちはより明確に個で得た学びを整理・分析する機会が与えられ、探究したいことに対して主体的に学習に取り組むことができるようになってきている。

具体的には、自分のテーマに合わせて校内で実験やものづくりを積極的に行うようになった（図23）。また、外部の地方公共団体や企業にアンケートを行うことに加えて、長期休暇を利用してフィールドワークを行う姿も多くみられるようになった（図24）。これは、生徒が自分の未来に向けてエージェンシーを発揮している姿である。

各教科等で身に付けた資質・能力を生かして教科等横断的に学びを探究する「未来創造科」の取組により、生徒が自ら学びに向かう力を養うことができるようになってきた。しかし、課題を見いだし問題解決に向けて探究をしても、社会の変化によりまた更なる課題が明らかになる。そのため、新たに見いだされる課題に対して、粘り強く、繰り返し学習に取り組む力の育成が必要である。今後は OECD が提唱する「社会情動的スキル」などを参考に、更なる学びの発展につなげていきたい。



〈図23 校内での活動の様子〉



〈図24 フィールドワークの様子〉

<参考文献>

群馬県教育委員会（2022）『学校教育の指針』

群馬県教育委員会（2022）『総合的な学習の時間で児童生徒も教師も楽しく探究！』

群馬県教育委員会（2022）『ぐんまのSTAEM教育』

群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』

群馬県教育研究所連盟（2001）『改訂新版 実践的研究のすすめ方』 東洋館出版社

澤井陽介（2017）『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』 東洋館出版社

田村 学（2018）『深い学び』 東洋館出版社

中央教育審議会（2021）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』

中央教育審議会教育課程部会児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ（2019）『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説総則編』 東山書房

文部科学省初等中等教育局教育課程課（2022）『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料』

文部科学省（2022）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編』